

# 浄敬寺だより

じょうきょうじ



発行日 平成二十七年八月十三日 第二十五号

## 【法語】

一句一言申す者は、われと思いて物を申すなり。信のうえは、われはわろし、と思い、また、報謝と思ひ、ありがたさのあまりを、人にも申すことなるべし。

蓮如上人御一代記聞書 九三

## 【意識・解説】

仏法について語る者は、みな自分こそが正しいと思つて話をしてゐる。しかし、信心をいただいたからには、自分は罪深いものと思ひ、また、そのような自分にまでかけられた仏の恩に報い感謝すべきと思ひ、ありがたさのあまりに人にはなしをするべきなのである。

## 2015 年前半写真



夏の法話会 (佐野明弘 師)



夏休み子ども会 (8/3)



報恩講お引上げ



盆参会 (7/13,14)



## ☆巻頭法話☆

### 『三条教区・三条別院宗祖七百五十回御遠忌を終えて』

今年是一段と厳しい夏でしたが、暦の上ではもう秋です。日中の暑さは相変わらずですが、気がつけば日暮れも早まって、夜間の風には確かに秋の気配を感じます。季節は確実に移っているようです。

今年五月十九日から二十四日まで、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が三条別院で厳修されました。数年前から準備していたことでしたが、終わってみると多々残念なことがあります。何といっても、別院の受け入れ人数の限界もあり、参拝募集を大々的にできなかったことが悔やまれます。一人でも多くの皆さんにお声かけをしたかったのですが、寺ごとの人数枠もあり、思うに任せませんでした。そんな法要があったのですか、と後で訊ねられ、氣まずかったと言われている御住職もおられました。致し方ないこととは言え、申し訳ないことでした。この度の御遠忌には、私は第十組組長（そちよう）としての役割もありましたので、参加者全体の取りまとめや、引率の責任もありました。そんなわけで、なかなか落ち着いて御遠忌の雰囲気を楽しむというわけにはいきませんでした。合計六回法要に内陣出仕ないじんさせていただき、その全てで約一時間半ずつの正座はさすがにこたえました。自分の一生で

こんなに正座したのは初めてだったような気がします。しかし、二十四日の最後のお勤めの結願日中（けちがんにっちゅう）が終わり、本山御門首のお言葉をいただいた時は胸が篤くなりました。自分の責任を果たせた安堵感と、大勢の力が結実して御遠忌が無事円成（えんじょう）されたという満足感が入り混じった感動でした。考えてみますと、私たちの日頃の生活は損得勘定ばかりが前面に出て、本当に感動することに出遇うことが無くなっているように感じます。御遠忌とは、宗祖親鸞聖人によって開顕（かいけん）せられた本願念仏の仏道に出遇わせていただく御法要です。七百五十年の歳月を経て、なお私の胸に迫り来るこの感動は、いったいどこから来るのだろうかと思わずにはおれません。

現代社会は物が満ち溢れ、お金さえあれば手に入らないものは無いと思われるほどです。それはそれで喜ぶべきことも知れませんが、現実にはそれほど心豊かな時代になっているとは到底思えません。自分さえ良ければと他を踏みにじり、自分だけが繁栄していくことを良しとする今の社会、そこには決して心の安住はありません。自分の真実の姿を見失い、自分の思いを満たすことに終始している私たち。そんな私たちに、決して諦めることなく、人間として生きる意義と喜びを見つけよ、とはたらきかけてくださっているのが阿弥陀様であり、宗祖親鸞聖人でもあるのです。この度の御遠忌を通して、改めてそのことを感じさせていた

いただきました。

浄敬寺では、十一月二十六日から二十八日まで、京都の東本願寺御正忌報恩講参拝の旅をいたします。二十八日の御満座では、『坂東曲(ばんどうぶし)』という一年に一度、この日東本願寺でしか勤まらないお勤めがあります。今度は京都で皆様とともに宗祖親鸞聖人と出遇わせていただきたいと思います。是非ご参加ください。

合掌

( 住 職 )

### ☆住職からのお知らせ

### ◎東本願寺報恩講参拝と京都の旅のご案内

坂東曲の勤まる東本願寺報恩講参拝の他、大谷祖廟参拝や京都市内観光を予定しております。坂東曲を参詣できるのは一年にこの日のみですので、大変貴重なご縁です。京都市内は紅葉も素晴らしい時期ですので、ぜひご参加ください。



三条別院御遠忌法要団参 (23)

期日 十一月二十六日(木)～二十八日(土)  
旅費 六万三千元(申込金一万円を含む)  
定員 三十名  
\*交通手段は往復とも貸切バスです

### ◎永代管理墓『安養廟』あんにようびょう 建立のお知らせ

春から工事しておりました浄敬寺永代管理墓がほぼ完成しました。

近年、お墓の継承者がいないということが全国的な問題となっており、柏崎でも永代供養のためのお墓を設置するお寺が増えています。浄敬寺には、無縁墓として観音様の下に納骨できる場所がございますが、今現在浄敬寺檀家の方が将来的に心配しなくても良いように、このたび永代管理墓として木造の八角堂を建設しました。「心安らかなお浄土の国」という思いで安養廟と名づけました。浄敬寺の本堂建設時に設計していただいた福井市の高島設計に設計をお願いし、お檀家の市内原町吉田淳建築に施工をしていただきました。なお、安養廟は、浄敬寺の勸金会計ではなく、住職個人で建設しましたので、建設のため費用を檀家の皆さんからご負担いただくことはありませんが、納骨を希望する場合は、基本的に生前に住職と契約していただくこととなります。境内へ入つてくると真正面に見えますので、新しい浄敬寺のシンボルとしても、是非一度ご覧ください。

安養廟は合祀が基本ですが、一定期間遺骨をお預かりすることもできます。詳細はご相談ください



## ☆庫裡便り (坊守)



### ◎御遠忌を終えて

五月十九日から二十四日の三条別院御遠忌法要には、団参、音楽法要に御門徒の皆様から参拝いただき感謝いたします。その音楽法要合唱団の方には、三回の練習に本番二回と三条に通い、ご難儀をいただきました十九日の音楽法要は准坊守(晴香)の伽陀の発声もあり、女性僧侶と合唱団との法要はとても感動いたしました。二十四日の御満座は、住職、当院夫婦と孫三人が参加した庭儀(稚児行列)があり、どんなに賑やかなことだったでしょうか・・・。

### ◎実母がお浄土へ還りました

六月に実家の母が満九十歳で浄土に還りました。心臓と腎臓不全ということで三日間の入院でしたが、意識もあり、夫・娘・孫達と別れの言葉を交わし、穏やかな最後でした。

両親は三年半程前から新潟の姉の近くに住んでおりましたので、父のことも考えて新潟で葬儀をし、しばらく本堂でお骨を預かり、七月末に納骨をしました。野菜作りと料理の好きな母でした。口ぐせのような「ありがとネ」が今も聞こえてくるようです。

### ◎三女朋恵が転勤になりました

奥羽教務所(能代市)に三年間勤務した三女が、八月三日付で本山出版部(京都市)に転勤になりました。十一月の京都旅行の際は顔を見せると思っています。

## ☆二〇一五年前半を振り返って

### ◎お講(二月二十二日) 平井地区の皆様

平井地区の皆様からお講を取り持っていただきました。自家製のお米や野菜、手の込んだ美味しいお料理をいただいた後、勤行と住職から法話がありました。蓮如上人から広まったお講は、教えを一方的にお話するだけでなく、語らい深めよという願いがあります。一日ご都合をつけていただき、ありがとうございました。

### ◎春彼岸(お中日三月二十一日) 法話 住職

仏教は生死に迷う此の世の中から、彼の世界、彼岸に到達する道を教えています。間違えても間違えても、迷っても迷っても、決して見捨てることなく、気付いてくれよ、気付いてくれよと願われているのです。日常の忙しい生活の中にも、今一度、この世の生活を顧みて彼の世界に目を開いてみたいものです。

住職から法話の後、勤行・おときがありました。この度初めてお彼岸にお参りして下さった方もおられました。ありがとうございました。

### ◎三条別院御遠忌法要団参(五月十九日二十三日)

六日間の法要中、十九日と二十三日に団体参拝しました。両日ともお日中(午前)の一座は音楽法要としてお勤めがあり、浄敬寺から坊守と共に合唱団として参加して下さった方々には、素晴らしい歌声で法要を荘厳していただきました。僧侶の声明も合唱団の歌声も、内陣に飾られたお華と同じ、浄土の荘厳(しようこん)です。五十年という節目の法要にご参詣いただき、ありがとうございました。これからの歩みを確かめる法縁となりました。

### ◎報恩講お引上げ(五月二十六日) 絵解き法話 今泉温資師

お馴染みの今泉先生から、御絵伝二幅目の内容を解説しながらの

ご法話を頂戴しました。親鸞聖人があきらかにされた本願念仏を聴聞し、現在の自分のあり方や本当に大切なことを問い尋ね、そのご恩に感謝する報恩講は、真宗門徒にとつて最も大切な年中行事です。別院の報恩講をお参りしてすぐの日程でしたが、今年も多くの方からお参りいただきました。おときには、例年通り下原地区の皆様からお勝手のお手伝いをいただきスムーズに準備ができました。

### ◎夏の法話会（六月二十八日） 法話 佐野明弘 師

お講や法要の最後に歌われる「恩徳讃」についてのお話でした。我々が何気なく読み、歌っている恩徳讃を親鸞聖人は、どのように思い読まれたのでしょうか。

まず「恩徳」とは「知恩報徳」の略で、意味は「恩を知り徳に報いる」ことです。私たちが思う恩は、自分にとつて都合のいい恩であり、恩返しをしなければならぬと感じるような恩です。しかし、深い意味では、大変いたましいご苦労をいただいでしまった、このご恩はとも返せるご恩ではないことを知る。それが「知恩」であると先生は言われました。

親鸞聖人が直接的に恩を感じたのは法然上人でした。法然上人に出遇ったおかげで、お念仏の教えに目覚めることができた。しかし、よくよく考えてみれば、法然上人の前には源信僧都、善導大師、道綽禅師、曇鸞大師、天親菩薩、竜樹菩薩もそれぞれお念仏の教えを説いてくださった。そして、元をひも解いてみれば、阿弥陀如来がずっと「念仏申せ」と呼びかけ続けてくれたんだなという驚きと喜びが起こってくる。しかし、その驚きと喜びよりも、親鸞聖人が深く感じたことは「ずっと呼びかけられていたにも関わらず、今まで気づかなかった。たいへんなご苦労をおかけしてしまつた。」という慙愧（ざんぎ）の心であると教えていただきました。私たちは凡夫であるが故に、恩についても、死に方についても善し悪しを選びます。しかし、私たちは縁次第でどうなるか分からない

い存在で、そのことに迷います。それ故、阿弥陀如来は、そんな凡夫を迎える世界お浄土と、お浄土に迎えるべく娑婆を貫く本願を立てられたのだと先生はお話しくださいました。

仏法とは人間の都合をよくするものではない。仏法は、人間の思いがかなってもかなわなくても苦しむ存在であることを示している。そんな存在だからこそ、念仏申して我が国に生まれよと、呼び続けて下さる。その呼びかけこそが「如来大悲の恩徳」である。なによりお念仏申すことが尊いこととお話しいただきました。

（ 当院 記 ）

### ◎盆参会ほんさんえ（七月十四・十五日） 法話 住職・当院

墓地が寺の境内にはなく、お盆に寺の御本尊にお参りのできない方や、嫁がれたり分家に出られたりされた方が自分のご先祖と繋がる寺に参詣する機会として広まった、新潟県中越地方独特の仏事です。近年はお盆の法要として皆様にご案内させていただいております。お子さんお孫さんと一緒に参詣してください方がおられます。ぜひ皆さんでお越しください。

### ◎夏の子ども会（八月二日）

子どもと大人、そしてスタッフ合わせて総勢七十名。今年も元気な声が境内に響き渡りました。

幼少の頃から毎年来てくれた方が中学生になり受付のお手伝いをしてくださいました。子どもさんの一年は大きいですね。ぐっと成長した姿に会えるのは何よりの楽しみです。浄敬寺の子ども会は、勤行もゲームも食事の準備や片づけも全て、大人も一緒に楽しむというのが、いつの間にか定着したルール（笑）。大人も子どもも、みんな『ほとけさまの子ども』です。裏方として焼きそばを焼いてくださった皆様、スムーズな進行にノリ良くご協力してくださいました。

本堂に写真を掲示しておりますので、ご覧ください。

## ★第二十三回 晴香の『真宗門徒のママ知識』

ちよっころ  
解説!

今回のテーマは『年忌法事』です。

ご法事を執り行う際の段取りと、御門徒の皆様からよくいただく質問をまとめてみました。

### ★日程調整について

ご希望の日時がありましたら寺にご相談ください。お電話で結構です。

① 誰の何回忌をお勤めするのか

② 会場は、自宅か寺の本堂か

自宅の場合、寺から御本尊をお迎えするかお内仏か

③ おときの有無は

という三点を、まずお知らせいただけると有難いです。法要を重軽で表すと、ご自宅に御本尊をお迎えして勤める法事が重い(より丁寧な)法要となります。

### ★事前の打ち合わせについて

法事に出席される方々に正式なご案内をする前に、細かい打ち合わせをお願いします。皆様に毎回お伝えしていることは

① 用意していただくもの

② 当日の流れ(時間配分等)の確認とご説明

です。ご自宅でのご法事と、寺の本堂で行うご法事の場合は、準備していただく物の違いがあります。ご不明な点は、遠慮なくお尋ねください。

### ★当日の流れは?

#### ①「自宅の準備

御本尊をお迎えしてのご法事の場合、床の間に御本尊をお掛けし、その前に仮の壇を組み荘厳しますので、床の間を空けていただきます。御華、御供物(果物・饅頭のような菓子)、御飯等をご用意ください。



#### ② 御本尊・僧侶をお迎え

ご自宅でのご法事の場合、御本尊様と僧侶の迎えをお願いします。その際、ご自宅に仮の壇を組み荘厳しますので、仏具等も運んでいただくこととなります。お車や人数の関係で、難しい場合は、前日までに仏具を運んでいただき、当日はタクシーで...という場合もあります。

#### ③ 参詣のお客さんのお迎え

寺の本堂でのご法事で、集合場所を浄敬寺とご案内した場合は、施主さんご家族のどなたかが早めに来られて、親戚等参詣の方のお迎えをお願いします。

#### ④ 法要次第 (ちよっころ解説つき)

・ 伽陀 ↓ 仏の教えを聞く会座となることを願う意味があります。

・ 表白 ↓ 誰をご縁として、何を願うかの法事かを述べます。

・ 御経 ↓ お釈迦様が説かれた教えです。途中で焼香があります。

・ お正信偈・念仏・和讃・回向の同朋唱和

↓ お念仏が伝わってきた歴史を親・聖人が記されました。

赤本をお配りして、ご一緒に唱和します。

↓ 法話 ↓ 住職から法要の意義や仏教についてのお話があります。

#### ⑤ おとき

『おとき』とは、漢字で『御齋』。齋の字はもともと、寺院で生活する僧侶の食事のことを表わし、その意味は「正しい」「慎み」などの意味があります。元々は精進料理を意味したのですが、いつしか仏事の後の食事をお斎(とき)と呼ぶようになりました。単なる腹ごしらえや宴会にせず、ご縁のある方と仏法を語らう場としたいものです。

#### ⑥ 礼参

御本尊をお迎えしたご法事の際は、また寺へ御本尊をお連れする...と言う意味で礼参をお願いします。

### ★小さなお子様連れの方へ

子どもが騒がないか心配...と思われるかもしれませんが、縁の深い方の生きられた証が子ども達です。お寺の雰囲気味わう良い機会と考えて、ぜひ一緒に参りください。

寺には絵本やおもちゃもありますし、元気な子ども達もおります。



# ☆二〇一五年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

\* 十三日・・ 午前六時より 本堂にてお朝事

九月十二日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

九月二十七日（日） 「音市場」会場

九月二十～二十六日 秋彼岸

\* お中日 二十三日（秋分の日） 午前十時半～法話勤行後おとき

十月一日（木） 女性坊守研修会

会場 エネルギーホール

十月十日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

期間中、十組団体参拝があります。ぜひご参加ください。

十一月十四日（土） 正信偈をよむ会 午前九時より

十一月二十二日（日） しまい講（例年より一週間早めます）

\* 午前十時半より法話・勤行・おとき

十一月二十六～二十八日（木～土）

\* 浄敬寺同朋会旅行（本山報恩講をお参りします）

十二月十三日（日） 年末法話会 講師 田澤一明師

（新潟市明誓寺住職）

二〇一六年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

\* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

## ☆一 仏教名言集 第十八回 『命数法』

めいすうほう

子どもとTVを見ていましたら元大関小錦が子どもと一緒に「恒河沙（こうがしや）」「阿僧祇（あそうぎ）」「那由他（なゆた）」など、お経にでてくるインドの言葉を歌っていました。その歌を聞いていましたら「一十百千万億兆京垓秭穰溝澗正載極恒河沙阿僧祇那由他不可思議無量大数」と歌っていました。調べてみたところ、これは命数法という数の大きさを表わす言葉でした。歌の最後の「無量大数」とは、一〇の $\infty$ 乗というとてもない数だそうです。

とてもない数といえば、人間が営み繋いできた私たちの命も、たいへんな数です。私たちから十代さかのぼれば、その親の数は千二十四人となり、三十二代さかのぼれば四十二億人の親がいるそうです。有史までさかのぼればどれだけの数になるのかわかりません。思うに命数法とは字のごとく、命の数を表現する方法なのではないでしょうか。

仏教では、数の多さは同時に深さを現します。人間が繋いできた命とは、不可思議または無量大数の命の深さがあると感じます。子どもとTVを見ていて思わぬ発見でした。

（ 当 院 ）

# 夏休み子ども

(中村進四郎様撮影)



来年も遊びに来てね!



8

## 三条別院御遠忌参拝記録



☆メールアドレス  
 住職 tom814@kismet.or.jp 晴香 haru310@kismet.or.jp  
 当院 minipapa@kismet.or.jp  
 ☆ブログ  
 『真宗大谷派浄敬寺 小僧☆はるかのかの気まぐれ日記』  
[http://blogs.yahoo.co.jp/haru\\_0310\\_naga](http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga)

☆編集を終えて：:  
 戦後七〇年を迎えるにあたり、テレビでは様々な特集が組まれ、多様な見解で報道や情報が流れています。私たちの未来を創るのは政治家ではない：という風が吹き始めた中で、二十五号の編集をしました。巻頭の法語は、「私は正しい」という正義立て、自分の意見を正論として相手を裁いていく私たちの姿を思い、選びました。親鸞聖人は「人間はどうにもならない罪深い身を抱えた存在である」ということを教えてくださいました。賑やかな子ども達との毎日、慙愧の心を忘れず、「ごめんなさい」を言える大人でありたいと思わされています。  
 (晴香)